

胎児心臓スクリーニング検査・胎児心エコーのご案内

生まれつき心臓病（先天性心疾患）を抱えている赤ちゃんの数は100人に1人とされています。もちろん、その心臓病の重症度も様々で、自然に軽快する心臓病もある一方で、生まれてすぐに心臓の手術が必要になるケースもあります。

先天性心疾患の検査（出生前診断）は進んでいます。大鳥居医院の胎児心臓スクリーニング検査外来は、こどもの心臓病に詳しい医師が行います。心臓の形の乱れがあるような重い病気があれば、特別の場合を除いて、おなかの中で診断がつきます。しかしすべてが診断できるというわけではありません。エコー装置の能力を超えるような微小な変化や、出生の過程の変化が原因で生じるような心臓病は診断できません。しかし一方、出生後すぐに生命の危険にかかわるような重い病気であれば、その大半は見つけることが可能です。



出生前に心臓病が診断されると、何かいいことがあるのでしょうか？赤ちゃんの心臓の形に大きな異常があっても、子宮の中にいる間は、赤ちゃんにはあまり危険はありません。問題となるのは出生後です。生まれた赤ちゃんが呼吸を始めると、肺が開き、心臓の血流が急激に変わるため、突然、チアノーゼ（酸素不足で真っ青になる）やショック（血圧の低下など）状態を呈し、生命の危険に陥るケースもあります。このような場合、赤ちゃんを救命するには新生児心臓外科医による緊急手術が必要です。新生児の心臓外科手術はどこの病院でもできるわけではありません。出生前に診断をつけ、あらかじめ専門の病院を受診しておくことが重要です。

先天性心疾患の診断がついていなかった場合、生まれてすぐに赤ちゃんの状態が悪くなり、原因もわからないまま赤ちゃんを搬送し、到着したときにはもう瀕死の状態ということもありえます。全身状態が悪くなってしまったからの緊急手術は救命率も下がります。もし生まれる前に診断がついていたら、状態が悪くなる前に、あるいは産気づいた時点で新生児・心臓外科医へもその情報が知らされ、出生後速やかに手術を受ける体制を整えておくことが可能です。良い全身状態で手術を行うことが出来れば、救命率も上がります。これは心臓病をもって生まれてくる赤ちゃんにとって良いことをしてあげたことになります。ご両親も心臓病に対する心構えをしっかりとって生まれてくるお子さんを迎えられることになります。

母体を介して赤ちゃんの心臓を見る胎児エコー検査ですから、すべての病気を見つけることが出来るわけではありません。また、母体の肥満、赤ちゃんの向き、子宮内の様子によって十分な検査ができない場合があることもご理解ください。しかし一方、重症の心臓病ほど見つけやすくはあり、前述の通りメリットの大きい検査であることは確かです。

限られた時間内に十分な検査を行う為、特別な異常がなければ画像のご説明をしたり、ご質問やご相談をお受けしたりすることはできません。胎児の計測や4Dエコー・お顔の描出なども行いません。検査の為の大切な時間であることをご理解頂いた上で受検して下さい。

胎児心臓スクリーニング検査は、希望者に対してのみ妊婦健診とは別に実施しています

- ☞ 対象：希望者（妊娠前からの糖尿病、膠原病、妊娠前からの長期薬物内服、親近者の先天性心疾患家族歴、妊娠 12 週頃の胎児 NT 肥厚などのケースでは推奨します）
- ☞ 申込方法：妊娠 12 週以降に Web からご予約下さい。
- ☞ 実施時期：妊娠 20～24 週
- ☞ 時間：水曜日 15:00～17:00（20 分程度）
- ☞ 費用：10000 円

Q&A

- ☞ Q. 妊婦健診と同じ日に受けることが可能でしょうか？
A. 可能ですが、それぞれ別々の診察です。ご予約もそれぞれに必要なになります。
- ☞ Q. 高齢妊娠でもないのですが、この検査は受けた方が良いでしょうか？
A. 母体の年齢と児の先天性心疾患の罹患率に有意な関係はないようです。年齢関係なく検討していただいても良いものと考えております。
- ☞ Q. 心臓以外の奇形はみてもらえますか？
A. 従来から通常の妊婦健診でみています。心臓は構造が複雑なので、妊婦健診とは別に「胎児心臓スクリーニング外来」を設けました。
- ☞ Q. 予約が取れませんでした。別の日程でみてもらえますか？
A. 24 週を過ぎても実施可能です。ただし妊娠後期になると観察が困難になります。遅くとも妊娠 30 週までの受検をお勧めします。ご予約はお早めにお取り下さい。



大鳥居医院